

新型インサイトのデザイン

Style and Design of New Model INSIGHT

名 倉 隆*
Takashi NAGURA
内 田 智*
Satoshi UCHIDA

樺 山 秀 俊*
Hidetoshi KABAYAMA
川 村 奈奈絵*
Nanae KAWAMURA

要 旨

新型インサイトは世界中で課題となっている低燃費と低排出ガスをコンパクトカークラスで実現し、より多くのお客さまに使って頂きたいという願いで「新世代コンパクトスタンダード」というコンセプトキーワードのもとに開発された。

エクステリアデザインは、スタイルだけではなく、空力性能に裏付けられた走りのかたちを目指し「AERO ATHLETE」をテーマにした。

インテリアデザインは、車ならではの操る楽しさとハイブリッドの未来感、先進感を融合し、「EMOTIONAL HYBRID INTERIOR」をテーマとした。

ABSTRACT

The new model INSIGHT was developed based on the key concept - "A Compact Car Standard for the Next Generation." During the development, the aims for the new INSIGHT were to achieve good fuel economy and low exhaust emissions in a compact class car, and to be used by even more customers.

The exterior design theme is that of an "Aero Athlete," and aims for not only an advanced style, but also a running form backed up by proven aerodynamic performance.

The interior design theme is that of an "Emotional Hybrid Interior" that fuses the fun of driving a car with the advanced, futuristic feeling of a hybrid car.

1. はじめに

1972年に発売したCVCC搭載CIVICを皮切りに、常に環境を考慮したモデルを販売してきた。

ハイブリッドカーとしては1999年に初代インサイトを発売し最高の燃費性能をお客さまに提供するという目的は達成できた。しかし2シータクーペというカテゴリーのため、多くのお客さまへハイブリッドカーの良さを提供できるまでには至らなかった。

新型インサイトは低燃費、低排出ガスというハイブリッドカーの良さをより多くのお客さまへ提供できるように「新世代コンパクトスタンダード」をグランドコンセプトとして開発された。環境に優しい低燃費、低排出ガス性能を重要視し、その上で、クルマ本来の楽しさという要素と、スタンダードカーに求められる使いやすい室内とラゲッジスペースを実現した。そして廉価で実現することで、より多くのお客さまへ提供することを目指した。

Fig. 1 に 2009 年発表されたインサイトを示す。



Fig. 1 2009 model year INSIGHT

2. パッケージレイアウト

パッケージコンセプト「高効率グローバルスタンダード」を具現化するために、1425 mm の低全高なコンパクトサイズでありながら、大人が5人乗れて、荷物もしっかり積める利便性に優れた5ドアハッチバックスタイルとした(Fig. 2)。車両の全高と全幅は全世界共通だが、全長はフロントライセンプレート仕様により、北米仕様は4375 mm、日本仕様は4390 mm、欧州仕様は4395 mm の違いがある。

FIT プラットフォームを基本とし、燃料タンクを後席シート下に変更した結果、前席乗員座面を FIT に比べて 50 mm 低くできた。

コンパクトサイズでも大人が前後に座れるように、ホイールベースは FIT から 50 mm 延長し 2550 mm とした。

それにより 2003 年モデルの欧州および日本向けアコード（北米向けアキュラ TSX）と同等の空間を実現した。

クラスを超えた低床荷室は、IPU(Intelligent Power Unit)の小型化と床下配置によって、荷室容量 355 L を達成した。欧州と日本向けスペアタイヤレス仕様ではさらに 105 mm フロアを下げることで選択可能になり、荷室容量を 400 L とした(Fig. 3)。

前方に配置したフロントビラーを採用したことで、サイドウィンドウエリアを前方向に広げることができ、ドアミラーの取り付け形状も小型化することで、良好な前方視界を確保した(Fig. 4)。

後方視界は、薄型リヤスポイラによるエクストラウィンド面積拡大で、小さい子供を想定したポールが確認できるようにした(Fig. 5)。

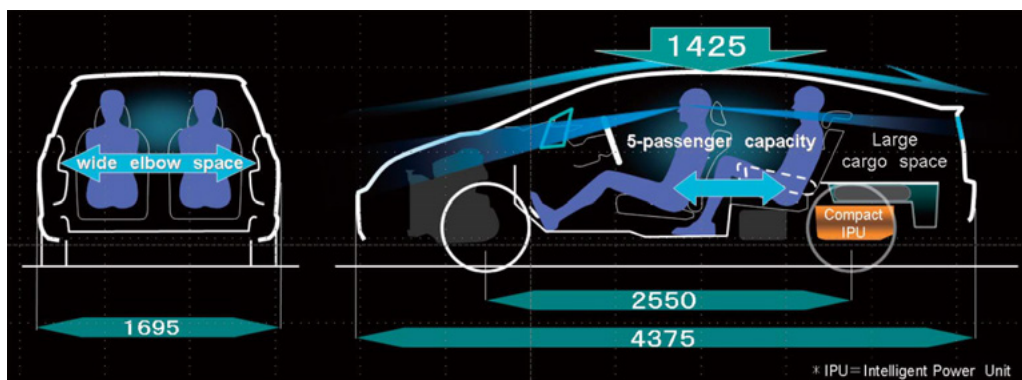


Fig. 2 Package layout (North American specifications)



Fig. 3 Luggage compartment for European and Japanese specifications



Fig. 4 Front visibility

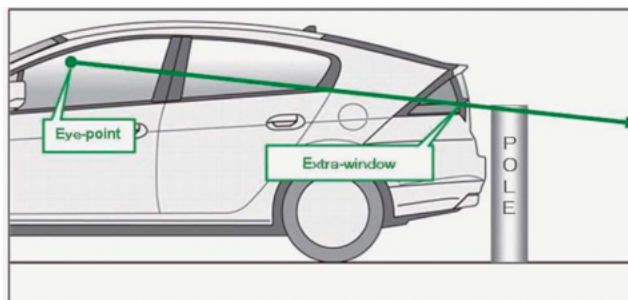


Fig. 5 Extra window

3. エクステリアデザイン

エクステリアは、空力により鍛え抜かれた力強い走りのカタチ「AERO ATHLETE」をテーマにスタイリングした。ボデーフォルムの骨格は、全高を低く押さえ、空力性能を向上させながらエンジンフード先端からキャビンに続く一体感でエンジン部をコンパクトに見せ、より先進的なフォルムとした。

ボデー横側に大胆かつシャープにはいったウェッジラインによりスピード感を表現、そのラインはキャビン周りとはボデー周りの空気の流れをそれぞれ最適にできる。それを包み込むサーフェイスはアスリートの筋肉がもつしなやかな張りをイメージして造形した(Fig. 6)。

開発ではデザインイメージを固める前にモデルによる空力テストの結果をデザインにフィードバックするために同

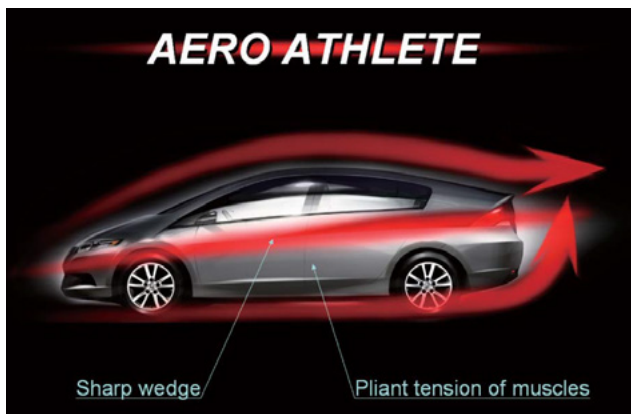


Fig. 6 Exterior design concept



Fig. 7 Final rendering

時進行させた。その結果、実車で CD 値 0.28 を達成し、空力性能に裏付けられたスタイリングにできた。

フロント周りは薄型横長のヘッドライトで、低くワイドに見せている。リヤコンビネーションランプとハイマウントストップランプを連続させ、リヤ周りの特徴とした(Fig. 7)。

リヤコンビネーションランプは先進的なデザインだけでなく、燃費向上のため、消費電力の少ないLEDを採用している(Fig. 8)。



Fig. 8 Rear combination lamp

4. インテリアデザイン

インテリアは、「EMOTIONAL HYBRID INTERIOR」をテーマにスタイリングをした。先進ドライバーズコックピットと爽快感、そして日常での使い勝手を併せ持つインテリア空間を目指した。

コックピットはHonda独自の先進インターフェイスであるマルチプレックスメータを採用し、縦基調の三角形コックピットとした。またインストルメントパネルの骨格を進行方向に向かいラウンドさせ、コックピット部を強調させると共にボリュームを軽減させた。さらにアッパー部とロア部を凹面にて構成し、クリーンな視界感と膝廻りの広さ感を実現させた(Fig. 9)。

マルチプレックスの表示類は、上段にデジタルスピードメータとアンビエントメータを表示させた。

ドライバに背景色の変化により運転状況を認知させ、低燃費走行が自然におこなえるようにした。

アンビエントメータは地球をモチーフに、「青い地球に、緑を増やそう!」という意味を込めた。

下段にはマルチインフォメーションディスプレイを中心にタコメータ、ASST/CHARG計、燃料計を配置した。機械の持つメカニカルでワクワクするような精度感をアナログで演出している。

マルチインフォメーションディスプレイには従来の車両

情報表示に加え、燃費走行時のアクセルとブレーキ操作をコーチングするエコアシストバーを表示させた。これらとステアリングを包み込むようにヒータコントロールとECONスイッチを配置し、先進性とFUN to DRIVEを高次元融合させたコックピットとした(Fig. 10)。

限られた幅の左右フロント席の間にカップホルダや小物収納(Fig. 11)に加え、コンソールボックスとアームレスト



Fig. 9 Interior design concept



Fig. 10 Drivers cockpit

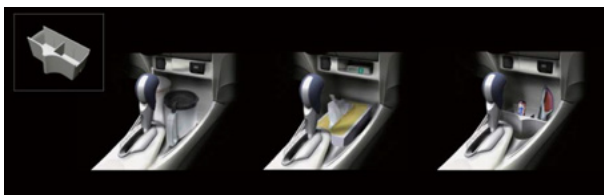


Fig. 11 Cup holder and storage



Fig. 12 Console box and armrest



Fig. 13 Lid type center pocket

(Fig. 12)を装備し、ドライバーの利便性を高めた。そしてオーディオ下にガレージオープナなどを隠せるセキュリティポケットを配置するなどダウンサイジングユーザを考慮し、実用性の向上をおこなった(Fig. 13)。

ライニング類はショルダラインを中心に上下にえぐり取る形に凹面で構成し、このクラス最大の室内幅を確保した。4人乗車時にカップホルダを二つずつ確保するなど、シンプルでクラスを超えた爽快な空間をつくり上げた。

フロントシートデザインは、腰の部分をしっかりサポートし、上半身は進行方向に向くスポーティなスタイリングとした。リヤシートはシートバック分割を6:4のフォールドダウンとし5人乗車とフルフラットな荷室を両立して使い勝手を拡大した。荷室の床は二段にし、トノカバーなどの床下収納を可能とした。

さらに小窓を設けることで転がりやすい物や倒したくない物を支えるなど細心の配慮をおこなった(Fig. 14)。



Fig. 14 Interior rendering

5. カラーデザイン

ハイブリッドの異質を組み合わせるという定義に基づき、二つの要素を対比、融合させ、すべてに新規性を表現した。

5.1. エクステリア

エクステリアカラーのテーマである「CLEAN, ECOLOGY, HIGH-TECH」をダイレクトに伝えた、スペクトラムホワイトパールとブリリアントスカイブルームタリックの2色をイメージカラーとした。

新色のスペクトラムホワイトパールは新世代らしく真新しい清潔感のある白を基調に新素材を融合し、先進的色覚をねらった。光源や見る角度によって真珠が虹のように多彩発色するパール顔料を配合させることで、ゴールドのハイライト感とブルーイッシュホワイトのシェード感の2色性効果が、筋肉質のボデーフォルムやふくよかなラインをさらに際立たせた。

グリルカラーは存在感のある先進表現として大粒形高輝度メタリックを用いた。外装色すべての相性を最適化するためにライト系とミディアム系の2色設定とした(Fig. 15)。

5.2. インテリア

インテリアカラーのテーマである「有機，無機」をカラー，マテリアル，サーフェイスデザインで表現した。インテリアカラーは，安心感あるウォームグレーで全体を包み込み，操作系を先進感あるブルーとし，異色相2トーン内装とした。有彩の2色間を無彩色の金属質な加飾によって内装全体の均衡をねらった。

サーフェイスは，内装全体を質感ある革紋で調和させ，操作部をメカニカルな幾何学校で対比させた。マテリアルは，シートセンタ部を軽量感あるメッシュ調ドット柄と，シートサイドボルスタ部を緻密で地厚のスエード調波柄で異素材を組み合わせ，抑揚あるシートフォルムを強調させた。

1タイプのインテリアカラーに対し，シートカラーは，ブルーとウォームグレーの2タイプ持つことで，効率的で明解な2タイプのインテリアとした(Fig. 16)。

6. まとめ

私たちは「新世代コンパクトスタンダード」というグランドコンセプトを基にデザインの開発に取り組んできた。全世界で大人5人が乗れて使いやすく，そして，ハイブリッドカーという先進性と車が本来持つエモーションという魅力の一つに融合することで新型インサイトのデザインを表現した。

その結果，車の未来に繋がる姿を見せることができる魅力的な車を創出できたと確信している。

いつの時代になっても地球の環境が保たれながら車にはやはり楽しさがあるということをより多くのお客様に感じて頂きたい。

この新型インサイトにより新世代の車への扉が大きく開かれることを願ってやまない。

著作権上の理由により非表示

Fig. 15 Exterior image colors and grille colors

著作権上の理由により非表示

Fig. 16 Interior and material colors

■著 者■



名 倉 隆



樺 山 秀 俊



内 田 智



川 村 奈 奈 絵